



2018年5月11日

各 位

会 社 名 大王製紙株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 佐光 正義
 コード番号 3880 東証第一部
 問 合 せ 先 執行役員経理部長 矢野 雅史
 (TEL. 03-6856-7513)

通期業績予想と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

2017年10月26日に公表いたしました2018年3月期通期（2017年4月1日～2018年3月31日）の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、2018年3月期 第4四半期連結会計期間（2018年1月1日～2018年3月31日）において、下記のとおり特別損失を計上しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2018年3月期通期（2017年4月1日～2018年3月31日）連結業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	540,000	11,000	12,000	6,000	41.17
実績値 (B)	531,311	11,062	12,779	3,971	27.25
増減額 (B-A)	△8,689	62	779	△2,029	
増減率 (%)	△1.6	0.6	6.5	△33.8	
(ご参考) 前期実績 (2017年3月期)	477,140	23,535	21,347	12,136	83.28

2. 差異の理由

売上高は、主に新聞用紙と印刷用紙をはじめとする紙の需要減少により減収となりました。

営業利益は前回予想並となりましたが、経常利益は金融費用の減少により営業外収支が改善したことで増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、第4四半期連結会計期間において、投資有価証券売却益 4,359百万円を特別利益に計上したものの、後述ののれんの減損損失 6,013百万円を特別損失に計上したことにより前回予想を下回りました。

3. 特別損失（減損損失）の計上

連結子会社の大王パッケージ株式会社においては、2012年に同社株式を取得した際にのれんが発生し、順調に償却してきましたが、原料である板紙の価格高騰により同社の収益性が低下し、のれんについて減損の兆候が認められました。

当該資産にかかる回収可能性を検討した結果、第4四半期連結会計期間において当該のれんに対する減損損失 6,013百万円を特別損失に計上することといたしました。

以 上